

ウコギ科 ハリギリ属

ハリギリ (針桐)

Kalopanax septemlobus (Thunb.) Koidz.

自生環境

山林

原産地

日本在来

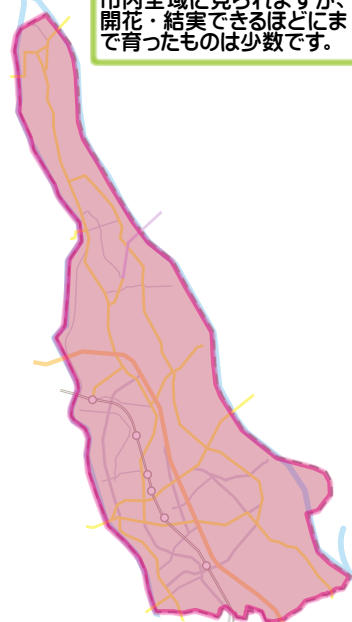
生育を脅かす要因



幼木はたくさん見かけますが、大きく育った木はそんなに多くありません。刺があり大木になるため伐採されやすく、また、自生環境の山林そのものが開発の影響を受けやすいです。

市内の分布状況

市内全域に見られますが、開花・結実できるほどにまで育ったものは少数です。



特徴

- ☆ 平地～山地の林内によく見られる落葉高木です。樹高 20m 以上にもなり、とても高いところで開花するため、咲いても見過ごしてしまいがちで、花の撮影にも苦労させられる樹種です。
- ☆ 幹や枝には鋭い刺がたくさんあり、うかつにさわると相当に痛い思いをします。古木になると刺の数が次第に少なくなる傾向があります。幼木は、葉のある時期は簡単に識別できますが、冬場はタラノキにそっくりです。ただハリギリの新芽もタラノキ同様に食べられます。
- ☆ 夏、小さな黄緑色の花が多数集まって丸い花の穂となります。その後に見える果実は直径 5mm ほどの球形で、黒く熟します。冬に落葉した後も残るため、果実は比較的見つけやすいです。

モミジそっくりの葉

ハリギリはウコギ科、モミジの仲間にはムクロジ科と、分類学上は全く別ものですが、葉のかたちはよく似ています。ただ、ハリギリの葉はモミジの仲間よりもはるかに大きく、直径 30cm にもなります。他にも、フウ科のモミジバフウも、名前のとおり葉のかたちはモミジそっくりです。いずれも市内の公園などで見ることができるので、晩秋から初冬の散歩の際、落ち葉の中から探してみてくださいね。



見上げるような大木になる



葉は手のひらのように切れ込み
モミジに似たかたちとなる



小さな丸い果実が
枝先にぎっしりとつく



寒くなると
黄色く色づく



新芽はタラノキ
と同じく食べられる

幹は刺だらけ



タラノキに
似ているけど
葉がちがう



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

